



越境する共創

クロスメディア20周年記念セミナーを大阪で開催 — 02

【動画の話題】

新YouTube番組「業界ビジネスシリーズ」スタート — 03
「有隣堂しか知らない世界」プロデューサーの書籍がライブ配信で予約殺到

【BUSINESS BOOK ACADEMY】

『一流飲食店のすごい戦略』著者・見富右衛門氏 — 04
『努力の地図』著者・荒木博行氏
『データ経営大全』著者・近藤恵子氏
『世界のマネジャーは、成果を出すために何をしているのか?』著者・井上大輔氏

【編集4.0】言葉で企業の本質を可視化する“企業の編集”<株式会社揚羽代表 湊剛宏氏> — 06

【CMG NOW!】コーチャンフォー若葉台店を訪問

【MY WORK】「売る」ではなく「つなぐ」マーケティング。数字の向こうに“出会い”をつくる仕事<足立沙季> — 07

【編集日記】「生涯、学び続ける時代」をポジティブに生きるヒント『教育ビジネス』<岡田基生>

【ビジネス書出版社社長のたまにはまじめな話】Vol.37 徳を積む — 08



出版・編集・起業に興味を持つ
参加者が殺到！

クロスメディア 20周年記念セミナー 盛況のうちに終了

“編集者になろう。起業家になろう。本を書こう。”
クロスメディア・パブリッシング代表・小早川幸一郎が
「出版と起業のリアル」についてお話ししました

創業20周年を記念して、2025年5月29日(木)、TSUTAYA BOOK-STORE イノゲート大阪にて、代表小早川によるトークイベントを開催しました。

本イベントには、編集者やライターを目指す方、本を書きたい方、起業に関心のある方、インフルエンサーなど約50名が参加。「編集」「出版」「起業」「経営」という4つのテーマについて、小早川自身のキャリアと実践をもとに語り、盛況のうちに終了しました。

クロスメディア・パブリッシングは、2005年の創業以来、「編集の力で社会を変える」を理念に、数多くのビジネス書を世に送り出してきました。本イベントは、20周年という節目の年に、小早川が自身の軌跡を通じて「出版社の仕事」を伝える機会として企画されたものです。

開催地・大阪は、小早川が起業当初に営業活動を行い、深くお世話になった土地であり、原点に立ち返る意味も込めて選ばれました。

会場には、「いつか本を書きたい」「編集者になりたい」「起業に挑戦したい」という熱意あふれる参加者が集まり、終了後の個別相談では出版企画の持ち込みやキャリアに関する相談が多数寄せられました。

当日の内容

- なぜ大阪でイベントを開催したのか
- 20歳で編集者としてキャリアをスタートした原点
- 思い出のヒット作
- なぜ出版社を起業したのか、その背景と葛藤
- 法人向け出版支援・採用広報など現在注力している事業について
- 広報活動やメディア戦略におけるクロスメディアの挑戦
- Q&A（次々と手が上がり、予定時間を超える盛り上がり）

ダイジェスト
記事はこちら



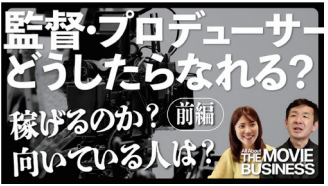
定員以上が集まり盛り上がった会場



代表の小早川と広報の演中



業界ビジネスチャンネルがスタート!



オリジナルYouTube番組を開設!

人気書籍シリーズ『業界ビジネスシリーズ』を原案とした、オリジナルYouTube番組「業界ビジネスチャンネル」を新たに開設いたしました。

本番組では、以下のようなテーマを軸に、毎回異なる業界のキーパーソンや専門家をゲストに迎えてトークを展開していきます。

- ・業界ならではの“あるある”や知られざる裏話
- ・ブランドやビジネスモデルが生まれた背景
- ・トレンドや業界を取り巻く課題のリアル
- ・プロフェッショナルのキャリアや価値観

私たちクロスメディア・パブリッシングは、書籍の取材を通じて、驚くべき現場の知見や、人・企業のドラマに数多く出会ってきました。「これをもっと多くの人に伝えたい」「ページだけでは収まりきれない熱量がある」——そうした思いが、本番組の出発点です。

書籍だけでは伝えきれなかった“声”や“空気感”を、映像でよりリアルに、より深く。

読者ではなく「視聴者」との新たな接点を持つことで、ビジネス教養をさらに広げ、深めていく場になりたいと考えています。

異業種を知ることは、新たな視点を得ること。ターゲットであるビジネスパーソンが「自分の仕事やキャリア」にも気づきを得られるような番組を目指します。

ぜひ、チャンネル登録や応援いただけましたら幸いです。



動画はこちら

coming soon!

- 酒ビジネス—海山がスゴすぎるワケとは?
- レストランビジネス—ミシュランの都市伝説
- 魚ビジネス—東京海洋大学に潜入!
- 小売ビジネス—日本はなぜEC化率が低いのか などなど ... 続々公開予定です!

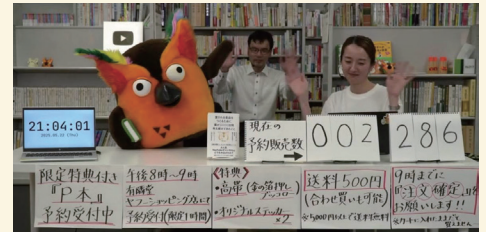
有隣堂しか知らない世界 プロデューサー初の著書が発売 YouTubeライブ配信で予約殺到

2025年5月22日(木)に実施されたライブ配信において、ハヤシユタカ氏の初著書『愛される書店をつくるために僕が2000日間考え続けてきたこと キャラクターは会社を変えられるか?』の限定特典付き予約注文数が1時間で2,286冊となりました。今回のライブ配信は、ハヤシユタカ氏にとって初の著書となる同書の発売記念企画として行われたものです。わずか1時間で2,000冊超を販売するという、書籍業界でも異例の快挙となりました。

チャンネル登録者数約38万人を誇る有隣堂公式YouTubeチャンネル「有隣堂しか知らない世界」の視聴者を中心に3000人以上を超える方にライブ配信をご覧いただき、大盛況のうちに終了しました。

本書は、「有隣堂しか知らない世界」立ち上げの舞台裏を描いた「ビジネス×ドキュメンタリー」です。元テレビマンである著者が、より多く・より長く見てもらえる「おもしろい企業YouTube」の作り方

予約ライブ配信終了時の様子



や、企業キャラクターを使った広報戦略の成功ノウハウ、そして強い絆で結ばれた「愛されるファンコミュニティ」を育てる方法などを自身の経験から明かしています。6月29日(日)には、「有隣堂しか知らない世界」の5周年をお祝いし、有隣堂伊勢佐木町本店をはじめとした各店舗でイベントが開催されました。クロスメディア・パブリッシングも応援に駆けつけ、オリジナルうちわを作成・配布して一緒にイベントを盛り上げました。



本店での5周年イベント当日、うちわを配布



多くの方に手に取っていただきました



有隣堂限定の高帯



通常版の表紙



特設Xアカウントも作成しました!

ライブ配信のアーカイブ動画





MITOMIEMON

見富右衛門氏

ビジネス書の著者と「編集者で経営者」の小早川による動画番組。
ビジネスパーソンに役立つ考え方や新たな視点を届ける。

一流の飲食店のすごい戦略とは

1万1000軒以上の飲食店を食べ歩いてきたー。思わず話を伺いたくなるエピソードを持つのが、ゲスト・見富右衛門さんです。

見富さんはレストランプロデューサーやグルメ活動家として活躍し、ZONZO創業者・前澤友作氏の「食のブレイン」までつとめる「食のプロ」。

その原点となった幼少期や学生時代の食体験、そしてサラリーマンから飲食業界に転身するまでの道のりをふりかえりました。

現在、食材の値上がりや人材不足など飲食業界はかつてない苦境に見舞われています。そんな中でも、「一流飲食店」の人氣が絶えない理由を、「料理の味だけではない、さまざまな

要素によって成り立っているから」と見富さん。

一つ一つのことを突き詰めて考えることで、説得力のあるストーリーが生まれ、それがお客様の感動を生むと語りました。

一流店に共通する哲学にはすべてのビジネスパーソンに役立つヒントがみついています。

自身がプロデューサーし、お客を楽しませる工夫がまった飲食店「ウブ」にも足を運びたくなること間違いなしです！



『一流飲食店のすごい戦略』

主な内容

- 広告代理店勤務からグルメの道へ
- 遊び心満載の経営店「ウブ」
- お店のこだわりがお客様の感動を呼ぶ
- 一万店以上から選ぶ、ストーリーが光るお店
- 他業種の仕組みを常に観察



動画はこちら

ひたむきに頑張る人を救う！ 努力が見える化する方法

株式会社学びデザインの代表取締役であり、武蔵野大学アントレプレナーシップ学部の教授でもある荒木博行さん。

執筆のきっかけは、担当編集者から「努力について語ってほしい」と声をかけられたこと。自身の経験談にとどまらず、「さまざまな人が語ってきた努力を、構造的に整理してみたい」という思いから、本格的なリサーチと分析を重ねて本作が生まれました。

本書ではまず、「努力」を4種類と、「報酬」を4種類に分類。さらにそれらをつなぐものとして、「神話（ストーリーパター

ン」を9種類設定しています。これによって、4×9×4＝144通りの努力のストーリーが描ける構造になっており、読む人それぞれが自分の経験と照らし合わせやすい設計です。

この本は、努力が報われないと感じている人や、これからどう進めばいいか迷っている人などすべての「努力している人」にとっての地図になることを願って執筆されました。

「努力」への固定観念から解放され、自分らしく頑張るヒントを得られること間違いなしです！

主な内容

- きっかけは「努力は報われるのか」という問い
- 努力を9つの神話で解剖する
- 努力・報酬・神話に固執しすぎる危うさ
- 仏教的視点と「空型」神話
- 努力を捉え直すことの意味



動画はこちら



『努力の地図』



HIROYUKI ARAKI

荒木博行氏

DXで未来を切り開こう データ経営で属人化から脱却！

近藤さんは、食品メーカーでの商品開発に携わった後、ベネッセコーポレーションに入社。女性向けコミュニケーションサイトの成長に携わりました。

その後、起業の道へ。最初に手がけたのは、患者と医療専門家をマッチングするオンラインサービス。しかし、日本の医療保険制度との相性が悪く、約1年で事業をクローズ。その経験を経て、現在のDX（デジタルトランスフォーメーション）コンサルティング事業へと方向転換しました。

大企業でのDX支援を通じて見てきたのは、データが整理

されていない現場の実態や、部門ごとにデータが分断されているという構造的な課題。

そんな中、AIの進化が追い風に、クラウド型のツールや低コストのAIサービスが増えたことで、中小企業にもDXの可能性が広がっています。

近藤さんは、DXに取り組む際は専門家を雇う前に、まずは身近な業務から小さく始めることが重要だと話します。

AIツールなども以前より導入のハードルが下がっています。書籍と合わせて、その一歩を踏み出してみませんか？



『データ経営大全——
中小企業経営の切り札』

主な内容

- 商品開発から出版業へ転職
- どんな企業もDXで価値創造を
- 日本のデータ経営が進まない理由
- 「AI活用とビジネスパーソン」2つの課題
- 組織へのアプローチは「データの整理」から



動画はこちら

日本企業が知らない「任せる育てる」技術

なぜ、マネジャー職が「罰ゲーム」のように感じられてしまうのか。今回は『世界のマネジャーは、成果を出すために何をしているのか？』の著者であり、複数の外資系企業でマーケティングの第一線を歩んできた井上大輔さんに、世界標準のマネジメントについて伺いました。

の企業ではマネジャーの育成が構造的かつ戦略的に行われており、そこには日本が学ぶべき視点が数多く存在しています。特に、日本の職場では「リーダー」と「マネジャー」の役割が混同されがちで、本来求められるマネジメントの本質が見失われている場面が少なくありません。

井上さんの豊富な経験に基づいた具体的なノウハウと洞察は、まさに現代のマネジャーが直面する課題への羅針盤となること間違いなし。世界のマネジャー教育から、人材育成のヒントを探ります。

テーマでもあります。また、海外



DAISUKE INOUE

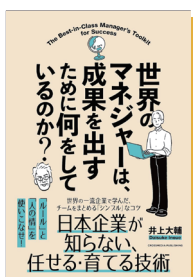
井上大輔氏



動画はこちら

主な内容

- 外資系から現在までのキャリア
- マネジャーは「罰ゲーム」なのか？
- リーダーとマネジャーは違う機能
- 海外と日本で異なるマネジメント教育の環境
- 実践に即した5ステップのマネジメント体系



『世界のマネジャーは、成果を出すために何をしているのか？』

KEIKO KONDO

近藤恵子氏

編集4.0

クロスメディアグループには「編集4.0」という考え方があります。編集4.0は、出版社の持つ「編集力」を、出版物に限らず様々な対象に活用することで、社会価値を生み出そうという考え方です。本連載では、編集のスキルや考え方を新しい視点で捉え、活用している人やプロジェクトをご紹介します。

- 編集1.0 メディアの編集
- 編集2.0 人の編集
- 編集3.0 事業と企業の編集
- 編集4.0 社会の編集

企業の本質を可視化する「編集的ブランディング」

映像制作から始まり、企業の「本質」を伝えるブランディングへ。

創業から20年以上経つ、株式会社揚羽は、映像プロダクションとしての出発点から、人的資本経営に基づく企業ブランディングの専門家集団へと進化してきました。その背景には、代表・湊剛宏さんが一貫して大切にしてきた、「企業の内側にある価値に光を当てる」という思いがあります。

本対談では、「編集3.0 ～事業と企業を編集する～」というテーマのもと、編集者でクロスメディアグループ代表取締役の小早川幸一郎が湊さんにインタビュー。企業の過去・現在・未来をどう切り取り、どのように社会へ伝えていくのか、編集と経営の交差点から新たなブランディングの方法を探ります。



企業ブランディングは「編集」

小早川：独立をして、経営者としての自覚が芽生えたのはいつからですか？

湊：創業当初は経営者という意識はまったくなく、少し時間がかかりましたね。でもリクルート時代の優秀な同期や後輩が入ってきてくれたおかげで、初めて「組織をつくる」という経営者としての自覚が生まれました。経営者といっても1人でできることは限られているので、様々な人を巻き込んで組織をつくっていく必要があります。経営者はある意味、プロデューサーです。

小早川：今は現場から離れて、経営に集中されているとお聞きました。

湊：現場の判断は信頼するメンバーに任せていて、私はなるべく口出ししないようにしています。でも正直、経営者よりも現場で働くほうが性に合っているんです（笑）。だから、いつか引退したら、夢だったドキュメンタリー映像をつくりたいなと思っています。

小早川：今、経営で力を入れていることは何ですか？

湊：人事・組織制度を整えたり、社員がやる気になる仕組みをつくったりして、すごいいい会社にしたいですね。私が思う「いい会社」は、「めっちゃ楽しい会社」。仕事が充実していて、経済的にも充実していて、仲間とも楽しくやっていける。この3つが揃っているのが「楽しい会社」だと思います。そういう会社を「編集」して、作品としてつくり上げたいと思っています。

小早川：企業のブランディングを手がける中で、「編集的だ」と感じることはありますか？



「企業の編集」から価値を生み出す

小早川：企業の潜在的な価値を言語化し、可視化していく。私たちが取り組もうとしている「編集3.0」は、まさに湊さんの活動とつながっています。

湊：「企業を編集する」とは、そこにある価値を並べ替えて見せること。社内にいる人間には当たり前なことでも、外から見れば驚くような強みがたくさんあります。それを編集の力で引き出し、社会に届ける。そのために、私たちは「企業の編集者」でありたいと思っています。

小早川：湊さんがおっしゃる「編集力」は、まさに今の時代に求められている能力だと感じます。情報が溢れる中で、何が本当に価値のある情報なのかを見極め、それを的確に伝える力は非常に重要です。

湊：本当にそう思います。特に企業のブランディングにおいては、表面的な情報だけでなく、その企業が持つ本質的な価値、つまり「らしさ」を伝えることが大切です。それを引き出し、整理し、最適な形で表現するのが、私たちの仕事だと考えています。

小早川：まさに「視点の編集」ですね。

湊：同じ事実でも、見せ方次第で「すごい会社」と印象をガラッと変えられるんです。それを社員にも、ステークホルダーにも伝える。会社の良さに気づかせてあげることが私たちの仕事であり、編集の力だと思っています。

音声配信はこちら



対談記事はこちら





ビジネス読書手帳コラボフェア開催！ 書店インタビュー

クロスメディア・パブリッシングから発売している『ビジネス読書手帳』とSNSで本の魅力を発信するインフルエンサー集団、ツナグ図書館の皆さまとコラボしたフェアをコーチャンフォー若葉台店で開催いただきました。そのご縁もあり、今回特別にお店の方がご案内くださり、動画を撮影させていただきました。動画を通して案内してくださったのは、統括マネージャーの千葉さん。千葉さんはSNSの影響力をいち早く取り入れ、売り場作りに活かしてられました。SNSで話題になった本を迅速に展開し、インフルエンサーとのコラボ企画も積極的に行っておられます。ぜひご覧ください。



動画はこちら

MY WORK

もっと楽しく、夢中に、クリエイティブに。
クロスメディアグループのメンバーの
想いを引き出します。

「売る」ではなく「つなぐ」マーケティング。 数字の向こうに“出会い”をつくる仕事

マーケティングは、売り込むことではなく“価値ある出会い”をつくること。

クロスメディアグループでマーケターとして活動している足立沙季は、同社のバリューである「編集力」の考え方に共感して入社。未経験からマーケティングの世界に飛び込みました。大切にしているのは、数字の奥にいる“人”を想像し、企業と顧客の橋渡しとして、価値のある出会いを生み出すこと—その実践と思索を重ねてきた道のりについて語ってもらいました。

クロスメディアグループとの出会いは、クロスメディアの運営するZEROGYMを知ったのがきっかけでした。今思うと、創業者・小早川が掲げる「編集40」の考え方も惹かれていたのだと思います。最初はZEROGYMのインストラクターとしての配属を希望していましたが、私の興味や将来の可能性を踏まえて、会社からマーケティング部門での配属を提案してもらいました。まずは自社サービスやマーケティングとは何かを知ることから始め、本やセミナー、社長との会話などを通じて徹底的に学んでいきました。マーケティングの仕事をして良かったと思うことの一つは、目的意識が高まったこと。目先の数値にとらわれず、「最終的にどんな変化を起こすのか」という目的と常に結び付けて考えるようになりました。目的が明確であれば、途中で結果が振るわなくても課題がすぐに見えて、失敗を糧にしながら前に進めると感じます。今後は、商品企画や事業設計など、マーケティングの上流にも関わっていきたいと思っています。マーケティングは絶対的な正解の無い仕事です。これからの皆さんの課題に直面することはあると思いますが、これまで通り、考えながらもまずは一歩踏み出して、その経験を糧にしていきたい。これからも、お客様と自社の成長にマーケティングで貢献できればと思います。



全文はこちら



法人事業部 足立沙季

編集日記

「生涯、学び続ける時代」をポジティブに生きるヒント



編集部 岡田基生

「教育」と聞くと、どんなイメージが浮かびますか？学校の勉強、受験、あるいはもっと広い意味での「学び」でしょうか。このたび、そんな「教育」を真正面から扱った新刊『教育ビジネス』が出ました。このテーマを選んだのは、「教育は、結局どんな人にも関係がある」というシンプルな気付きからでした。私が編集しているビジネス書も、広い意味では「学び」のツール。良い本を作るなら、その大本にある教育について知っておく必要があると感じていました。会社で働くのも、自分が学び、後輩に教えるという教育のプロセスに関わり続けることです。さらに、世の中の動きも、この本を作る後押しになり

子育て中の親戚や友人からは、「うちの子、学校に行きたがらなくて…」「どんな教育がいいのか、正直わからない」なんて声もよく聞きます。コロナ禍以降、デジタルツールを重視する、リアルな体験を重視するなど、多様な塾や教育サービスも増えているため、途方に暮れてしまうのも当然です。そして、その人に合った教育を模索していくというのは、子どもだけの話ではありません。誰もが生涯学び続ける時代が来ているのです。生涯学び続ける時代に楽しく学んでいく道を探るには、教育の全体像を知っておくことが大切です。先生や子育て中の方はもちろんですが、多くのビジネスパーソンにも読んでいただきたい一冊です。



『教育ビジネス』



本連載はこちら

ビジネス出版社社長の

たまには じめな話

Vol.37 徳を積む

大きな仕事を成し遂げるには、多くの人の力を借りなければなりません。そして、その人々を巻き込み、価値ある仕事を生み出すためには、単なる能力や報酬だけでは限界があります。リーダーに「徳」があるかどうか。それが人を惹きつけ、信頼を得て、困難を共に乗り越える原動力になります。

私自身、会社を成長させるために経営のスキルを高めようと日々努力しています。しかし、成功しているリーダーとそうでないリーダーを見比べるなかで、能力と同じくらい、いやそれ以上に「徳を積む」ことの重要性を最近では感じています。

能力は、学びや経験によって短期間で向上させることもできますが、徳はそう簡単に身につくものではありません。言葉遣い、態度、約束を守る姿勢、人への思いやり。日々の積み重ねのなかでしか育まれ、目には見えない資質です。

経営とは、終わりのない挑戦です。そして経営者としての成長も、終わりのない道のりです。

だからこそ、能力と人徳の両輪を意識しながら、目に見えない価値を意識して磨いていく。そんな姿勢が、信頼される経営を築くことにつながると、あらためて感じています。



クロスメディアグループ代表 小早川幸一郎

Webで連載中！

TOPICS

人事・総務の展示会HR EXPOに初出展

2025年6月25日(水)～27日(金)に東京ビッグサイトにて開催された「HR EXPO (第16回人事労務・教育・採用)」に出展し、社員の学びとエンゲージメントを育てるサービス「オフィスライブラリー」と「疲労回復専用ジム ZERO GYM」について紹介しました。

「オフィスライブラリー」は従業員の方が仕事に活かせる本に出会える場をオフィス内につくるサービスです。企業様ごとの課題に合わせて本を選び、随時入れ替えも可能。ビジネス書を通じて自己成長する習慣を身に付けることは、会社の成長にも繋がります。社員の成長を促し、組織に知的活力をもたらす「オフィスライブラリー」。学びの環境整備をお考えの企業様はぜひ一度お気軽にご相談下さい。



TOPICS

出版社発の卓上本棚、誕生！

「積読ホルダー」は、社内の企画大会から生まれたアイデア商品です。当社は出版事業を営んでいるため尚更ではありますが、オフィスのデスク上は本だらけであることが常です。そして、気づけば本はどんどん積み上がり、しまいにはその本を買ったこと自体も忘れてしまう……。折角、「いつか読もう！」と思って買った本ですから、キレイに置いてきちんと読み終えることができれば良いですね。そんな問題意識から生まれた商品は、クラウドファンディングはなんと開始90分で目標金額を達成。デスク上の整理アイテムにいかがですか？



詳細はこちら



ライターとして生きていきたいなら
Crossmedia Writing School

出版社から直接学べる
ライティングスクール、
開校します。



TOPICS

ライティングスクール開講！

AIによるライティングが実装されてきた現在、単なるインタビューの文字起こしやSEO記事の大量生産は、AIに代替されていきます。価値あるコンテンツを作るためには、経営者や専門家の本音を引き出し、最適形でアウトプットできる徹底した「企画力」「取材力」「編集力」が欠かせません。クロスメディア・パブリッシングは、ライターを社内で育

成し、幅広いメディアに対応した品質の高いコンテンツ制作を日々追求しています。

そこで、豊富な出版実績と現場で培ったノウハウを活かし、次世代のライター育成に向けた新たなスクールを設立する運びとなりました。最新のAI技術を活用した実践的な内容もあり、卒業生には案件紹介制度を通じて次のキャリアへつなげることが可能です。開講は9月予定。



詳細はこちら